

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月1日(木)

会場:青河コミュニティセンター

参加者数:33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>地域資源を活かしたまちづくりという絵柄を市ではどのように考えているのか。モデル像をどのように考えているか提示していただきたい。</p>	<p>地域資源を活かした産業づくり, 地域づくりであったり, 地域に活かせるものを皆さんからご提案いただきたい。何かあればご発言いただきたい。</p>	
<p>神杉のトマト栽培の施設(植物工場)について, 地域資源になると思って建てられたと思うが, 栽培をやめるという話を聞いた。今後の見通しやどのような目的を持って建てたか市民に対して説明がない。併せて教えていただきたい。</p>	<p>障害者の雇用の場の創出, クリーンセンターの余熱の活用, 農業の振興の3つを目的として整備した。その運営については, 公共的な団体ということで, 障害者の雇用という社会的貢献ということも含めて, 暮らしサポートみよしによる運営を開始したが, 最終的に収支が上手くいかなかったため, 8月末で終了することになった。現在, 3つの目的を達成できる運営団体を選定している状況。新たな事業者を探して整備目的を達成したいと考えている。</p>	
<p>暮らしサポートみよしによる植物工場の運営について, 何が問題だったのかよくわからない。経営の何が問題だったのか教えてほしい。</p>	<p>収穫量が計画通り伸びなかったこと。人件費が当初の計画より高くかかった。当初の人員より人材を確保するというので, パートから契約社員に切り替えたことで人件費がかさんだというのが収支の状況である。</p>	
<p>青河町は様々な面から見て, 安全という場所が比較的不い。コミュニティセンター, 小学校は比較的安心安全な場所に位置していると思うが, 昨年の災害では, 川が氾濫する事態が発生した。周りの土手は私有地で広島の方が持っておられる。川の管理をしている県との間で土地の問題の処理が行われていない。災害はいつ起こるかわからない。コミュニティセンターの用地内に擁護壁を作っていた。早急に考えていただきたい。防災の手引きが配布されたが, 地域の自主的な運営の表記がない。防災マップにしても自主防災組織や地域のコミュニティセンターは一切入っていない。危機管理課に問い合わせても間違いではないと言われた。どのような対応をされるのか。</p>	<p>・コミュニティセンターの前の土手が民地でなかなか了解が得られないため堤防の嵩上げができない問題については, 広島県に市からも話をしている。基本的には川の断面が大きくなると根本的な解決にはならないと考える。会長からあったようご壁という方法もあると思うが, 今すぐやるとは言えない。検討する必要がある。</p> <p>・避難所の運営の在り方について, 昨年の7月豪雨災害では避難所の運営について, 自主防災組織に大変なご苦勞をかけたこと認識している。市内全体で避難所の運営には大きな課題がある。昨年は市内全域で避難指示を出すという前代未聞の状況であった。地域防災計画は, 140カ所の避難所を開けるということになっている。職員の手が全く足りなかった。現実を踏まえ, 昨年度避難所の在り方を見直し, 各住民自治組織ごとに19の基幹避難所をレベル3で開設する。それを補助する形で避難勧告(レベル4)になると補助避難所を開ける。基幹避難所は市職員が開ける。補助避難所は市の職員又は自主防災組織に開けていた。共同で開けたり, ということを決めた。まずは避難所の在り方について, 大枠を決めた。現実的には, 自主防災組織にもお手伝いいただくほうが絶対良いと考えている。各基幹避難所, 補助避難所で, どのように運営していくか決めておく必要があった。まだ詳細を決めていないことは申し訳ない。早急に市全域で各避難所の細かい調整をさせていただきたい。手引きに自主防災組織の位置付けがない点について, 地域防災において自主防災組織が大変重要な役割を持っていることは十分認識している。地域の方や自主防災組織の方にももっとわかりやすく表記していきたい。今後, 役割分担情報の流れをわかりやすく伝えていけるよう工夫していきたい。</p>	
<p>青河地区の公共土木災害, 農地災害について具体的な場所を教えてください。</p>	<p>・公共土木施設災害について, 河川は阿部地川, 市道市場下瀬谷線で2カ所災害が起こっている。田んぼの用水を仮設で送っている状況である。コミセンの対岸の市道酒河155号線。田の用水がいなくなれば本格的に工事に入る予定である。</p> <p>・農地農業用施設については, 工種別で説明させていただきたい。田が1件, 畑が1件で農地が2件。農業用施設として, ため池1件, 頭首工1件, 揚水機1件, 能動1件, 水路が7件で農業用施設11件の内訳になっている。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月1日(木)

会場:青河コミュニティセンター

参加者数:33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・昨年、警報発令による休校時に子ども教室を開いてはいけなかったと言われた。保護者から、子どもたちを連れてきてはいけなかったか問われた。子どもたちだけを家に残しておくのは不安である。特別警報が出ているときは、保護者も家にいる。朝、晴れていても警報が出れば学校は休みになる。状況によって子ども教室を開かせてほしい。</p> <p>・家にいれば子どもは安全か。親のいないところにいて、川の水が増えた時、家に誰もいない。どうすればよいか。三次高校では特別警報以外は学校に来てもよい。学校に来るのに道中が危ない子は、欠席してもよい。三次高校の考えは、学校に来ているほうが安全な子もいる。自分たちで判断して学校に来て良いとなっている。子ども教室も親が送っていけば来て良いということも言えるのではないか。もし親が仕事を休めないのであれば、仕事を休んでよいという運動をしていただけたら、子どもたちが本当に安全に過ごせるのはどこなのか、責任だけではないところを考えてほしい。</p> <p>・コスモキャストについて、通知が来るのが遅い、1回1回住所を登録しないといけない。つながらない。7月18日に携帯に通知が来たのが4時間後。本当に使えるものなのか。ヤフーの防災速報のほうが正確で早い。</p>	<p>・大雨洪水警報が出た時の子ども教室について、子ども教室も放課後児童クラブも同じ対応を市としてお願いしている。学校が臨時休校になる場合、子ども教室、放課後児童クラブに自分で歩いてそこまで行く児童も多い。児童の安全を最優先に考え休会にしている。警報が出ているときに子どもたちを1カ所に集めて安全が保てるのかということも考え、市としては休会としている。</p> <p>・ご意見はよくわかる。市としては、どこの施設も同じように扱う立場である。地域の中で子どもたちを預かるところが避難所になっているところであれば、当然、大人もいるし、子どもがいることもありうる。地域の実情も踏まえうえて、子どもの安全を確保して頂きたい。</p> <p>・コスモキャストについて、音声だけ届いた、文字だけ届いた、どちらも届かない、すごく遅れて届いたなどいろいろな症状があった。一つにはスマホの環境にも左右されると聞いている。コスモキャストのソフトが重いと判明しているので改修している。コスモキャストを導入した理由は、音声告知放送で情報を流すのが基本だが、旧三次地区が音声告知の加入率が低い。メールは費用が掛かるがアプリなのでかからないというメリットがある。大切な伝達手段と考えているので、円滑にスムーズに情報を伝えられるよう改修を重ねていきたい。</p>	
<p>昨年7月の災害について、地域は床上浸水の被害を受けた稼地地区。大雨が降ると災害に遭う地区である。家はかなり嵩上げしている。水が来た要因がいろいろある。護岸を超えてきた。川の土砂の堆積。床上浸水した地域なので、何か手立てをしていただけるのか。青河のほかの地域でも床上床下浸水があったが、何か話が出ていることがあれば教えてほしい。</p>	<p>場所がはっきりわからないので、後ほど教えていただきたい。</p> <p>酒河87線1号橋があるが、昨年の豪雨で浸水被害が起こっている。河川管理者の県に、1号橋から下流の部分について堤防の嵩上げを要望していくことを考えている。市として浸水した区域について調査を行っている。県と協力しながら検討していきたい。</p>	
<p>災害時のフロー図で市の内部の連絡体制はあるが、市から自主防災組織への連絡体制は書いていない。本当にそれでよいか疑問である。</p>	<p>現実には、市から自主防災組織にも情報を伝え、自主防災組織からも状況報告をいただくのが災害時の流れだと思っている。印刷されている計画については、次回の改訂時には自主防災組織やその他の機関についても市と機関、住民をどのようにつなぐかももう少し正確に表記したい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月1日(木)

会 場:青河コミュニティセンター

参加者数:33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>気象庁でも安全を第一に考え、小雨で大雨警報、微風で暴風警報が出るような状態。どの程度でレベル3, レベル4が出るのか。統計で出すのか現実に現場を見て出すのか。</p>	<p>最近気象庁が早めに出されるという印象を持っているが、客観的な気象情報として受け止めている。これを避難情報に置き換えて市民の皆さんに情報を伝えるが、レベル3, レベル4はこの4月からの運用。各地で運用について混乱が出ている。気象情報、雨量、河川の水位をどのような関係を持ってレベル3とか4を伝えるかは手探り状態でやってきた。まず洪水と土砂災害に分けた。洪水の場合、河川の水位計が要所要所にある。河川の水位、反乱危険水位応じて出していくと考えている。ただし避難準備水位であっても上流で大雨が降っていれば1段階上げるという考え方。ダムの場合、ダムから出る緊急の情報については否応なしに避難勧告、避難指示といった形で市民に伝えたいと考えている。土砂災害については、メッシュ情報で判断して、黄色ならレベル3。市内全域ではなく、メッシュが出たところについて出す。広がっていくと北部全域といったように出していく。警報=レベル3, 土砂災害警報=レベル4ではなく、できるだけ皆さんの実感に近い出し方をしていきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 8月1日(木)

会場: 青河コミュニティセンター

参加者数: 33人

参加者の発言	市の発言	備考
土師ダムで250トン放流した場合、青河地区へ来るのにどれだけ時間がかかるか聞いたところ、時間は4時間30分かかるとは、どれだけ水位が上がるかわからないと言われた。どれだけ水位が上がるか少なくとも関連する自治組織に発信してほしい。	時間については以前、土師ダムからデータをもらってお伝えした。水位については、土師ダムでは支川の影響もありも答えられないと言われた。再度確認したい。	
旧三江線資産の利活用について伺う。	昨年度、鉄道資産について検討委員会を設け、その中で検討いただいた。市への提言という形で粟屋と作木の門田地区については市道としての活用、尾関山周辺については、三次まるごと博物館事業の周遊のポイントの一つとして地域活性化に活用してはどうかという提言をいただいた。市で取得して、今年度、どのように活用できるか検討を進めるようにしている。その他についても、地域の意見を聞きながら必要に応じてJRと調整していきたい。	
運動公園野球場の人工芝の改修について、当初、人工芝のほうが維持管理費が安いということで、人工芝にされたと思うが、改修が早いのではないか。本当に人工芝が天然芝に比べて維持管理費が安いのか。	建設時、人工芝が良いか、天然芝が良いか、土のグラウンドが良いか比較検討した。三次の気候状況等を勘案すると冬場に芝がだめになる。年に1回はプロの試合も開催するようにしたい。人工芝との比較は、8分の1から7分の1くらいの維持管理費だった。人工芝なら1年中使える。野球場建設委員の広島東洋カープの松田オーナーにも相談し、三次の気候だと人工芝で維持するほうが良いというアドバイスもいただき人工芝にした。	
敬老会行事について、補助の対象年齢の基準日が9月30日となっている。分かりづらいので年度に合わせたらどうか。	整理ができるようであれば、方向性を出していきたい。	
「三次」を思い切って平仮名にしてはどうか。「へそのまちみよし」はどうか。	「みよし」と呼んでももらえず悔しい思いをしている。平仮名のみよしも愛知県にある。全国で「みよし」と読むところが3つある。三次市と徳島県の三好市。愛知県のみよし市。なんとか「みよし」と呼んでもらえるようにいろいろな機会を通じて取り組んでいきたい。	
市役所の北口は一方通行になっているが、現在は一方通行の必要がない。警察と話して一方通行を解除してはどうか。	議会の中でも一方通行を解除したらよいという話もあった。警察に確認したところ、ずいぶん前に地元から要請があって一方通行にした路線のため、すぐに解除するのは難しい。再度、警察に確認しながら庁舎の周りの道路事情の改善について調査していきたい。	
もののけミュージアムがオープンする際に、三次中学校では、街歩きマップを作ったり、物の怪の看板やスタンプラリーなどを提言した。それなのに、開館時に子どもたちが誰も呼ばれなかった。連休中はグラウンドが臨時駐車場のため使えなかった。提言したものがどうなったのか教えてほしい。	地域の方にもいろいろご協力いただいた。三次中学校の生徒には、もののけカフェの授業の中でいろいろな提案をいただいた。「妖怪たまご」というのも作っていただき、交流館にも飾らせていただいている。まだまだ十分に対応できていない。博物館やまちづくり機構とも連携して、どのような対応ができるか検討していきたい。	